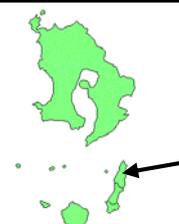


モデル事業名	「カシミア号のふるさとづくり」
活動団体名	伊関カシミア協議会
ホームページ (ブログ)	<a href="http://isekikashimia.synapse-blog.jp/kaze/">http://isekikashimia.synapse-blog.jp/kaze/</a>
所属/ 担当者名	代表 沖田実盛
連絡先	〒891-3221 鹿児島県西之表市伊関463-1
活動地域	鹿児島県西之表市伊関校区

### ● 活動地域の概要

本土最南端から40km南に位置する種子島は、鹿児島市から高速船で90分、飛行機で40分ほどで結ばれ、交通の便が良く、温暖な気候に恵まれ平坦な地形を活かして農業が盛んな島です。最近ではロケットの発射場やサーフィンなどのマリンスポーツなどでも注目されています。一方、種子島全島として少子高齢化や人口減少問題が進行する中、中心市街地への特に若者が集中する、地域内都市化現象が起こり、道路等生活インフラが整備されつつある一方で、農村集落の少子高齢化がより一層顕著になってきています。



この伊関校区は、伊関小学校を中心に5つの集落から成り、人口467人の内65歳以上が31%を占めています。明治18年に難破した米国帆船「カシミア号」乗組員を救助し、米国大統領からその功績を感謝された地域で、現在も毎年先祖の徳を讃える「記徳祭」行事が行われ、地域住民の団結力を高めています。農業が盛んな地域で、早期園芸作物の他、サトウキビ栽培や安納芋が生産され、また手作り黒糖は島内随一で年々注目されつつあります。

### ● 活動地域の課題

◎ 現在約200世帯の人口規模が年々減少し続けており、今後も老年人口の増加及び生産年齢人口の著しい減少が見込まれています。◎これまで地域の活性化を中心的に担ってきた校区議会や集落の役員となり手が不足し、集落の自治会費の負担増と予算額の減少による活動費の削減などによって、自治会組織の活動が縮小しつつあり、新たな活性化の取り組みが求められています。◎これまで市内でも一番生産性が高い農業地帯であったにも関わらず、農業の担い手が急速に高齢化する一方、後継者問題が深刻化しつつあります。



(太平洋を望む伊関小学校の全校児童数はわずか13名。)

### ● 活動の内容

(全体) 1) 地域内資源の発掘・農業などの生産部門及び自然景観や歴史等幅広く地域内の資源を再評価。  
2) 「もったいない」規格外品など地域資源の活用。「村咲・ムラサキ」市場開設。昔ながらの手作り黒糖の生産拡大に向けた支援活動。  
3) 保育園を地育園へ。地域交流の活性化。高齢者や児童、また出郷者等地元関係者への交流会の開催及び、地域からの情報発信。月刊協議会便りの発行。

#### (直近1年間の進捗など)

- ・ 校区議会や各種団体など、地域担い手の現状把握のための聞き取り調査やアンケートの実施。40代以下の若い世代を対象にした現状認識等についてのアンケート実施は初の試み。
- ・ 直売所の運営。村咲市場の3ヵ月毎の開催や各集落に設置した無人市場の、地域資源発掘をしながら、運営強化。
- ・ サトウキビの活用作の研究。地元特産として近年需要が高まりつつある「沖ヶ浜田」黒糖について、バガス(搾りかす)の活用方法、黒糖蜜の製品化等に向けて専門家のアドバイスを受けながら調査研究。
- ・ 高齢者の自立や健康増進を目的とする月例会を定期的に開催するための支援を行い、また行政との連絡調整。
- ・ 「伊関カシミア協議会便り」の発行や情報発信。地域内イベントへの参加。

## ● 活動の成果

＜全体＞ 21年度発足したカシミア協議会は21年度活動実績をベースに、新たに「重点分野雇用創出事業」を導入して、スタッフ2名を8月から配置し、より活発な活動に取り組んでいます。

- ・ 地域活動を担うカシミア協議会について、毎月取り組みや地域行事を紹介する協議会便りを発行し、校区内に全戸配布しています。このため、地域住民の理解が広がりました。
- ・ 高齢化率は集落によって異なりますが、地域高齢者の実態調査を実施し、介護予防や安否確認を目的とする高齢者の交流会を校区内の全ての集落で開催できるよう働きかけています。また行政の担当課と連携しながら、「高齢者支援協議会」を校区議会や地元関係者で設立しました。
- ・ 校区の課題や将来予測について、協議会の運営委員会開催などを通じて、地域の役員や住民の認識が深まりつつあります。行政の地域振興係を中心に、地域課題解決に向けて住民代表が行動計画を作り、次年度以降に実行する計画です。



「おーい元気会」



「夏休みの子ども読書会」



「10月村咲市場」

### ・ 直近1年間の成果など

- ・ 村咲市場が3ヶ月ごとに開催されるようになり、出品者数も増え、地元で定着しつつあります。
- ・ 協議会スタッフが高齢者の生活実態等の訪問ヒヤリングを実施。行政関係部署との「地域ケア会議」を通してこれまで以上に細やかな情報が共有されています。高齢者交流を目的とした「おーい元気会」が一つの集落でも新たに設置されました。また校区全体の高齢者を対象に「高齢者の交流会」を1月末に開催する予定です。
- ・ 地域行事への参加が少ない40歳以下の若い住民を対象に、地元についての意識調査を行い、42名のアンケート結果を得ました。今後は将来展望とともに議論するための交流会を開催する計画です。校区行事としては初の試みとなります。
- ・ 伊関校区の特産品である黒糖作りは11月下旬から4月まで行われます。これまで以上に、搾りかすの有効活用や販売促進支援のコーディネートを行っています。地域ブランドとして注目の一品です。



## ● 今後の課題及び展望

### ・ 課題と展望

- ・ 校区議会や地域自治会の役員不足など、若い世代を中心に、人材育成が課題となっています。若い世代が活発に参加できる機会が求められています。アンケート結果を活かして、交流会を開催し若手リーダーを発掘し、若い世代による地域興し事業を展開していきます。
- ・ 地元小学校の建て替えが23年度に予定されており、地域に密着した小規模校となるよう、地域住民がより積極的に議論し提案していくことが求められています。
- ・ より一層人口減少や高齢化が進行する予測に対し、地元住民だけでは限界が見えています。カシミア協議会の取り組みや地域の活性化への協力や支援が得られるよう、協議会便りや地元情報を積極的に発信しながら、地元出身者などへ働きかけます。
- ・ 地域内の農家所得向上には、現在の取り組みだけでは至っていない。行政との連携を強化しながら、規格外品等販売力の向上が課題です。

## ● その他（自由記述）

